令和 2 年度第 7 回ローカルファンドを考えるコアメンバー会議　議事録【概要版】

日時：令和 3 年 2 月 13 日（土）19：00～21：00
＊オンライン開催

■出席者：別紙出席者一覧のとおり

■議事等

1　はじめに（西条市）

◎事務局：一般社団法人　全国コミュニティ財団協会より「地域の中小企業の社会事業化を支援する若手支援者の育成事業」の公募があり、リズカーレ安形氏より申請を検討するとの連絡があった。また、申請にあたってコアメンバーへの情報共有を行いたい旨の申し出があったことから、本会議にてご説明いただく。

2　申請内容について（リズカーレ安形真氏）

（1）申請に至る経緯

・本会議では、コミュニティ財団を作ろうという動きが出たものの、担い手がいないことで議論が止まり、その後、ゼロベースから西条に必要なローカルファンドを考え作ろうということになったと認識している。
・自分自身が担い手となる想いはあったが、ボランティアでは難しいと考えていた。そんな折、今回の助成金情報があり手を挙げた次第。
・申請〆切が 2 月 15 日ということで、皆さんに、コミュニティ財団への意識をお聞きしたいと思い、集まっていただいた。

（2）事業の概要

・大きく以下 2 つのシナリオを考えている。
　① 3 年間で基金部分を切り離し、コミュニティ財団をつくる
　　その場合、財団設立メンバーであらゆることを考えていく。
　　経営にもコミットしていく必要がある。自分自身は、仕組みをつくることに注力しようとしている。
　② リズカーレ独自で基金をつくる（業務拡張型）
　　その場合、どのようなものを作るか、助成先などは、リズカーレが決める。
　　今のところ、「100 年先の子供たちに良い状態で地域を渡す」ためにと考え、助成先は水資源を守る活動などを中心に検討中。
・事業資金の調達方法は、寄付（ふるさと納税）、電力（まちづくり電力：コストカット分を寄付）を検討中。
・支援先は、社会的事業の担い手（NPO や企業等）を想定。

・今後の進め方として以下の 3 つのストーリーを想定。
　コミュニティ財団をつくる
　　⇒①リズカーレから切り離す

⇒② ローカルファンドを考えるコアメンバー会議でイチからつくる
③ リズカーレが独自で基金をつくる

(4)皆さんにご協力いただきたいこと

・営業活動(寄付集め)
・新電力に関すること
・研修講師(ファンドレイジング)
・プロジェクトの伴走支援、コーディネート　を協力いただくことを考えている。

3 質疑応答・意見交換

◎事務局:リズカーレの一事業として活動し、必要性が出てきたところでコミュニティ財団設立、という可能性はあるか?
自由にやっていく方がやり易いということもあるだろう。その場合も行政や関係する人たちが関わっていく必要はあろうかと思っている。
⇒当法人がまず活動し、コアメンバー会議の議論が煮詰まった段階で、必要があれば分離させるということは可能。

◎事務局:リズカーレの活動や他メンバーの方の活動など、今は別々に存在しているものが、今後連携するということもできるのではないか。
⇒一事業者として、ローカルファンド研究会のメンバーとして、ともに課題解決していく関係性が築ければ、と思っている。

◎メンバー:コミュニティ財団はやはりあったほうが良いと思う。

◎メンバー:コミュニティ財団の立ち上げには馬力がいる。今のままだとみんなの足並みが揃わなくなるのではないか。各活動の連携は理想ではあるが、ハードルが高いのでは。お互いやっていることが見えず、限られたリソースがばらけることも危惧している。
自分自身は申請事業に関わろうと思うが、まとまっていけるのか?どうやって団結していくのか?
会議の位置づけが見えないと、メンバーから見ても、どうやって関われば良いのか分かりにくい。
総論は賛成であり、みんなで関わっていこうという機運が作れれば一番良いと思っている。

◎メンバー:来年度、コアメンバー会議はどうする予定か。

◎事務局:ローカルファンド構想は、資金だけでなく人や情報などが循環して地域が良くなっていく構想。その中でふるさと納税による NPO 指定寄付や西条市版 SIB を先行して実施中。(図参照。)
今回の申請案件は、寄付を預かって社会的事業へ渡すというもので、本構想の一部分になると認識しているが、本構想のすべてを網羅するわけではないと考える。
コアメンバー会議では、メンバーの方がさまざまな活動をする中で、それらが連携していき、住民一

人一人が社会的な課題にアプローチできるという状態を目指している。そこを目指す中で、そのためには何が必要か、というところを考えている。
申請案件は、そのための重要なキーとなるパーツだし、ほかの活動もそれぞれがキーパーツ。そういうものをひっくるめて、もっと考えていく必要がある。
この会議は、行政が設定したお題に委員の方からご意見をいただくというものではない。メンバーの皆さんと一緒に議論する中で、次に議論すべきことは何か？と考えてきた。現時点では、議論を続けるべきと考えているが、皆さんの意見を聞きたい。

◎メンバー：すべての機能を持たせることはまだ出来ないが、具体的に活動する中で、今後必要なものを考えていくコアメンバー会議にしてはどうか。
提案だが、コアメンバー会議の一年間の議論の中で意思が固まったら、コミュニティ財団として分離させる、という道筋はどうか。コミュニティ財団を作る・作らないは今判断しなくてもいいが、ただ議論は期限を区切ってほしい。　今回の案件をうまく活用して話し合っていけばいいと思う。

◎メンバー：全体的なグランドデザインを話し合おう、というのもいいが、3 年後の目標を置き、そのために今やることを逆算して話し合うのがいいのでは。結果、コミュニティ財団にするかというのは、その時の熱量にもなるが。
やはり、この申請案件とコアメンバー会議がそれぞれ独立した動きというのはどうなのか。また、コアメンバー会議は今後どういう集まりにしていくのか。

◎メンバー：市役所の方と話す中で、今後、ローカルファンドに関わる人たちでの円卓会議をつくろうかという話も出ていた。当法人も、いち資金仲介事業者として参加するイメージを持っている。
ただ、例えば 5 年後にこの案件を切り分けてほしいと言われると、企業としてはマイナスとなる。まずは熱量のある人だけで少人数で小さな形でもスタートさせるのが良いと思う。

◎メンバー：この案件をコアメンバー会議としてどう位置付けるか、うまく利用するといいのではと思う。
これまでの議論の中で、当初よりコミュニティ財団への必要性は高まっている。先ほど市から話があったように、資金支援だけではなく併せてほかの支援も必要で、全体のイメージ作りの途中というところ。はたから見ればスピードが遅く感じるところもあろうかと思うが、みんなで話し合う必要はあると思う。
とはいえ、申請事業としては時間の制約もあるだろう。今回申請されるのは全く問題ない。

◎メンバー：一事業者としてやっていくということに何の反対もない。
ただ、これまでコアメンバー会議でずっと議論してきたことは大切。私もコミュニティ財団は必要という認識をもって参加しているが、議論は続けていかないと、それが広がるまちにはならない。
このまちに今までなかったものを広げていくのは、難しく時間がかかるのは当たり前のこと。
その議論が横滑りして今回の申請事業に取って代わるとなると、それは理解しがたい。
ただ、先ほどの「リソースがばらける」といった意見も理解できる。そこは少し考える時間が欲しい。

◎メンバー：自分はメンバーとして加わったのが前回からのため、これまでの過程が分かりきっていないかもしれないが、今回の申請の動きは大切なことだと思う。「先に仕組みを作り実行し、途中で切り離してもいい」というところも、地域のことを考えていると感じた。
一方で、支援先が絞られるより、コミュニティ財団型のほうが理想には近いとは思う。
ただ、前に進ませるという意味では、やってみるのが良いのではないか。

◎メンバー：一年以上来られていないメンバーもいるが、どうか。

◎メンバー：この際、コアメンバー会議を一新したほうがいいのでは。そもそも、この会議は毎回参加者を募集するオープンな形なのか。

◎事務局：現在参加募集はしていない。この会議の前身となった、ローカルファンド研究会という先進事例の講演会は、オープンに参加者を募って、ローカルファンドというものに興味のある方に参加いただいていた。継続的な協議にしたいので、そういった方々に事務局から声を掛けていって、集まっていただいている。毎回公募にすると議論が毎回単発で終わってしまうため、この形を取っている。ただ、参加が少ないということも踏まえ、会議の持ち方は工夫しないといけないと認識している。

◎メンバー：こうした取組は、いろいろな人が関わっていかないと広がらない。市民の方にまず動きを知ってもらったり、寄付を集めて、どういうことに使うか、本当に西条の未来に必要な取組とは何かみんなで考えるなど、具体的なアクションとセットで考えていかないと、遠い世界の話になる。本当に困っている当事者の人たちと、この会議というのは、今はすごく遠い位置にあると感じる。
進んでいく一つのきっかけとして、ドラスティックにやることが必要だと思っている。

◎メンバー：そういう動きを、この会議で利用するくらいのスタンスで。
一事業者としてやっていく方がうまく前に進むこともあると思う。またコアメンバー会議では今までハードルだったことがある程度クリアできると、議論も前向きに進む足がかりとなる。

◎メンバー：ぜひ利用していただきたい。
一番良い形は、西条市にコミュニティ財団ができることだと思っており、まずは資金仲介を行う。
将来的な中身を考えていく作業の中で、みんなの気持ちを一つにする必要があると思う。行政の力も必要。それが出来れば、今回の取組を 2～3 年目に切り離したい。
もし 1 年間で議論が熟さなければ、残りの期間で、なるべく地域の方の意見を聴き当法人で決めていく。コミュニティ財団という道をメインとしつつ、そういった形を模索していこうと思う。

◎メンバー：コミュニティ財団には「公共性」が重要だと認識している。信頼を築く部分であるが、公共性をどう担保するか？
⇒事業の評価手法に、「社会的インパクト評価」の考え方を用いることとしており、公平な評価というベースを持ちつつも、どこを重点的に支援していくかは当法人が決めるというイメージ。

◎メンバー：ある程度の関心の中で支援先を選ぶこととなり、偏りが出てくるのではないか。
そうするとコミュニティ財団とは成り立ちの部分で変わってしまう。
⇒みんなで考え、みんなが出資（＝合意）し、改善しつつ回していこうとしている。そうした中で、いずれかのタイミングで盛り上がっていくようなイメージ。そのためのネタを提供しつつ、いろんな意見を出してもらったり一緒に汗をかいたりしてもらおうと考えている。そのためにも、これをボランティアとして考えると無理があるため、仕事としてやっていく必要がある。

◎メンバー：あまりに「ビジネス臭」がすると穿った見方をする人もいるため、スタート時の公共性は大事。

◎メンバー：公共性は大事。最近は企業でも倫理面を押し出しているところもありアピールすることも重要だと思う。まずはチャレンジャーがいないことには進まないため、初めはあまり周囲の反応を気にせず突き進んだ方が良いと思う。

◎事務局：私自身、このチャレンジを応援したい。
行政としても、調整役に回ることになろうかと思うが、できることをやっていきたい。
自由にやっていきたいという想いがあろうかと思うし、こちらの枠にはめないのがベストかと感じている。
そういった中での行政としての支援、調整の方法を考えていきたい。

◎メンバー：普段は皆さんの意見を聴いて事業を進めるということはしておらず得意ではないが、皆さんの協力も必要でコアメンバー会議のこれまでのこともあり、このように会を開いていただいた。今回の案件が、良い意味で実験台のような役割を果たせれば良いと思う。

「了」